

# 登場人物にみる『私たちの道徳』の特徴 —その活用方法および留意点を視野に入れて—

歌川 光一・鈴木 翔\*

## A Proposal on Moral Education Using Historical Figures in “Watashitachi no Doutoku”

Koichi UTAGAWA and Sho SUZUKI

### 1 問題の所在

#### (1) 研究の背景

第二次安倍内閣に設置された教育再生実行会議は、2013年2月の第一次提言において、いじめの問題等への対応をまとめる中で、「いじめの問題が深刻な状況にある今こそ、制度の改革だけでなく、本質的な問題解決に向かって歩み出すことが必要であり、心と体の調和の取れた人間の育成の観点から、道徳教育の重要性を改めて認識し、その抜本的な充実を図るとともに、新たな枠組みによって教科化すること」(文部科学省初等中等教育局教育課程課2014a,b)を提言した。このような動向を受け、中教審は2014年10月21日、小中学校の「道徳の時間」を教科に格上げし、検定教科書と評価を導入するように下村文部科学相に答申した<sup>1</sup>。教育再生実行会議の提言や中央教育審議会の答申を踏まえ、「道徳の時間」(小・中学校で週1時間)を「特別の教科道徳」(「道徳科」)(引き続き週1時間)として新たに位置付ける学習指導要領の一部改正がなされ、小学校は平成30年度、中学校は平成31年度から、検定教科書を導入して「道徳科」が実施される(文部科学省2015)。

一方、道徳教材の動向という観点からみると、2013年2月の提言を踏まえて、同年3月に文部科学省「道徳教育の充実に関する懇談会」が設置され、「道徳教育の充実は、いじめの問題の解決だけでなく、我が国の教育全体にとって重要な課題であるとの認識の下」、『心のノート』の全面改訂や教員の指導力向上方策、道徳の特性を踏まえた新たな枠組みによる教科化の具体的な在り方などについて検討が行われた(文部科学省初等中等教育局教育課程課2014a,b)。『心のノート』については、「道徳教育の充実に関する懇談会」の下に設置した「心のノート改訂作業部会」が改訂作業を行い、以下の点が変更された。

### 2 具体的な改善イメージ

#### (1) 冊子構成・名称について

- ①学習指導要領の「内容項目」と対応させ、「小学校低学年」「小学校中学年」「小学校高学年」「中学校」の別に冊子を作成する。その際、書き込み欄を工夫するなど、冊子内での段階的な指導がより容易となるよう配慮し、複数学年にわたって使用する特性を生かす。

\* 秋田大学大学院工学資源学研究所

②各冊子の分量は現行の1.5～2倍程度を目安とする。

[中略…引用者]

(2) 内容について

①授業においてより活用しやすいものとなるよう、学習指導要領に示された内容項目ごと  
に読み物部分と書き込み部分のセットで構成することを基本とする。

先人等の残した名言、国内外の偉人や著名人、伝統・文化、生命尊重等に関する読み  
物など、児童生徒が道徳的価値について考えるきっかけとなる素材を盛り込む。

その際、これまでに文部省・文部科学省で作成してきた読み物資料等の中から良質か  
つ改訂方針に沿ったものを積極的に活用する。

[以下省略…引用者]

(文部科学省初等中等教育局教育課程課2014a,b)

この方針の下に改訂されたのが2014年4月より全国の小中学校にて配布されている『私たちの道徳』<sup>2</sup>である。懇談会の方針のみならず、そもそも2008年度改訂小・中学校学習指導要領において「(指導計画の作成と内容の取扱い)先人の伝記、自然、伝統と文化、スポーツなどを題材とし、児童が感動を覚えるような魅力的な教材の開発や活用を通して、児童の発達の段階や特性等を考慮した創意工夫ある指導を行うこと」という規定があったため、『私たちの道徳』も「児童生徒の発達の段階を踏まえ、先人等の名言、偉人や著名人の生き方に関する内容を多く取り上げるとともに、いじめ問題への対応や我が国の伝統と文化、情報モラルに関する内容などの充実を図っている」ことを特徴の一つとしている(文部科学省初等中等教育局教育課程課2014a,b)。

## (2) 研究の目的

本稿は、「先人等の名言、偉人や著名人の生き方に関する内容」を重視する道徳教材である『私たちの道徳』について、登場人物の観点から教材としての特徴を把握し、その活用方法および留意点を、歴史人物に着目して検討することを目的とする。

『私たちの道徳』において「先人等の名言、偉人や著名人の生き方に関する内容」が盛り込まれているのは、主に「読み物資料」「コラム」であり、その活用方法については、既実践例などが紹介されつつある(早川2014、河合2014、木下2014、糸2014、七條2014、鈴木2014、常見2014、吉本2014、松元2015)。文部科学省道徳教育推進指導資料作成協力者、『心のノート』作成協力者にもなっている福田鉄雄は、活用のポイントの一つとして、道徳の時間における「読み物資料」の効果的使用を挙げ、以下のように述べている。

「心のノート」には一遍も所収されていなかった読み物資料が、『私たちの道徳』では、小学校低学年12編、中学校13編、中学校9編入っている。これらの資料はみな優れた読み物資料である。道徳的価値を自覚させるための「しかけ」が資料の中に仕込まれている、道徳の時間の指導のために開発されたものである(福田2014:20)。

ただし、「人物コラム」の活用については、以下のような補足がつけられている。

なお、「人物コラム」は、道徳の時間を想定して書き下ろしたのではなく、道徳の時間に開発された読み物資料にみられる、価値を自覚させる「しかけ」が必ずしも内在されているものではないので、中心的な資料として扱う場合は、十分な配慮が必要となつてこよう（福田2014：20）。

このように、『私たちの道徳』において、「先人等の名言、偉人や著名人の生き方に関する内容」が重視されているが、その活用方法については未だ模索の段階にある。そもそも、道徳教育の教育内容研究・教材研究の遅れが指摘されている（山崎2015）。

近年の道徳教育研究では、鈴木ほか（2011）、柴田（2011, 2012）、貝塚・柳沼（2014）、高柳・北田（2015）といった、特定の「先人」「偉人」「著名人」についての事例研究が蓄積されているが、教育現場における「どの人物をどのように扱うのか」という要請に応えるためにも、登場人物の観点からみた『私たちの道徳』の特徴の全体像を把握する必要がある。

また、とりわけ家庭での読み物としての役割が期待されている『私たちの道徳』において（時津2015）、今後、市販の子供向け偉人伝などとの関連性を比較分析する上でも、人物の扱われ方に注視する必要があるだろう。

そこで本稿では、『私たちの道徳』における登場人物を体系的に把握した上で、同教材の活用方法およびその留意点について検討する<sup>3</sup>。同教材の活用方法やその留意点については、『私たちの道徳活用のための指導資料』（文部科学省2014）や長谷（2015）、柴原（2015）といったガイドブックとしても公表されているが、2. で確認されるように、同教材の登場人物の多くを物故者が占めることを踏まえ、本稿では、歴史学習で用いられてきた「人物学習」<sup>4</sup>の観点から、歴史人物をどのように扱うべきか考察を加えていく。ここで「人物学習」に着目するのは、特定の人物の学習を通じて児童・生徒に何を育成させるべきかをめぐる社会科教育研究の蓄積が大きく、特定の人物のエピソードを通じた道徳性の獲得を目指す道徳教育の指導法を模索する上でも示唆が大きいと考えられるためである。

### （3）研究の手順

研究に際し、小学校1・2年生用、小学校3・4年生用、小学校5・6年生用、中学校用『私たちの道徳』に登場する人物すべてをピックアップし、各種人名事典<sup>5</sup>等を用いて、登場する教材の学年（・校種）、内容項目、人物の属性（生年、性別、国籍、生存状況）、社会的注目度、歴史的重要度（社会的注目度<sup>6</sup>、歴史的重要度<sup>7</sup>の指標については後述）についてデータベースを作成した<sup>8</sup>。

本稿では、このデータベースを用いて、人物が登場する「学年」「内容項目」と属性（2.）、歴史的重要度（3.）の関連を検討し、教材の活用方法に関する考察および今後の展望をまとめる（4.）。

## 2. 登場人物の属性と学年、内容項目の関連性

ここでは、『私たちの道徳』に掲載されている人物が誰であり、その傾向がどのように見られるかを概説していきたい。

なお、以下では表1のように、内容項目を〈自分〉〈人〉〈生命〉〈社会〉と略記する。

表1：内容項目の分類

	〈自分〉	〈人〉	〈生命〉	〈社会〉
小1・2	自分を見つめて	人とともに	いのちにふれて	みんなとともに
小3・4	自分を高めて	人と関わって	命を感じて	みんなと関わって
小5・6	自分を見がいて	人とつながって	命をいとおしんで	みんなとつながって
中	自分を見つめ伸ばして	人と支えあって	生命を輝かせて	社会に生きる一員として

この分類に沿って、学年ごとに『私たちの道徳』に登場する人物を列举すると表2のようになる。

表2：内容項目別にみる登場人物一覧

	〈自分〉	〈人〉	〈生命〉	〈社会〉	〈その他〉
小1・2	二宮金次郎 武者小路実篤	日野原重明 フレドリヒ・フォン・シラー	河合雅雄 やなせ たかし しいくいんの 高市さん (愛媛県のとべどうぶつ園) アンリ・ファーブル 林柳波		
小3・4	澤穂希 高橋尚子 エイブラハム・リンカーン マリー・キュリー 手塚治虫 横万智 千住真理子 イチロー	滝川クリステル 良寛 オスカー・ワイルド 風淋 梶賀千鶴子 ロンドンオリンピック男子400mメドレーリレーチーム まど・みちお	宮越由貴奈 葉祥明 牧野富太郎 斎藤隆介 滝平二郎 葛飾北斎	天野篤 小篠綾子 井深大 郡司ななえ 石川啄木 小泉八雲(ラフカディオ・ハーン)	
小5・6	ワンガリ・マータイ 内村航平 豊田佐吉 森光子 向井千秋 アニー・サラバン ヘレン・ケラー イチロー ピタゴラス 福沢諭吉 吉田松陰 夏目漱石 十八代目中村勘三郎 マリー・キュリー 池田菊苗 中谷宇吉郎 ラボック	宮澤章二 相田みつを ジョージ・ワシントン ラ・ロシュフコー マルクス・トゥッリウス・キケロ 松下幸之助 野口英世	キエル兄弟 宮沢賢治 毛利衛 奥村土牛	福沢諭吉 マザー・テレサ 千住明 澤田美喜 小川笙船 山上憶良 橋岡寛 野口英世 西口ようこ 藤子・F・不二雄 歌川広重 ゴッホ 小林虎三郎 坂本龍馬 新渡戸稲造 千玄室 ピエール・ド・クーベルタン 加藤明	尾本恵一 三枝成彰
中学校	香川綾 アリストテレス ホラティウス フランクリン ウィリアム・スミス・クラーク 南波六太(架空の人物) 松井秀喜 アウレリウス スピノザ 魯迅 上杉鷹山 白洲次郎 菅野綾子 井上ひさし 伊能忠敬 スタンリー・ポールドウィン 柴田トヨ 湯川秀樹 ユーゴー アインシュタイン サン・テグジュペリ 山中伸弥 世阿弥 西田幾多郎 河合隼雄 坂村真民	松下幸之助 具原益軒 新渡戸稲造 チャップリン O. ヘンリー 若田光一 アラン 太宰治 マザー・テレサ ジョージ・ワシントン 正岡子規 夏目漱石 本田宗一郎 ゲーテ キルケゴール ロマン・ロラン 新島八重 フィヒテ 与謝野晶子 倉田百三 山岡鉄舟 孔子 ヴォルテール ジンド 振分精彦(元小結高見盛) 鈴木大拙 シュバイツァー ケネディ 茨木のり子	緒方洪庵 ハイデッカー 吉川英治 フランクル 広瀬淡窓 大木聖子 ワーズワース 杉原千歌 アンネ・フランク 老子 バスカル ルソー	西村健一 夏目漱石 吉野作造 菊池寛 洪沢栄一 石井肇子 ガンディー ゲーテ エマーソン 小津安二郎 鈴木邦男 北里柴三郎 内村鑑三 園木田独歩 鎌田實 小嶋登 坂本浩美 室生犀星 濱口梧陵 西岡常一 岡倉天心 白洲正子 野村萬斎	一戸彦彦

表2からわかるように、ページ数が多く、フォントのポイント数が大きい低学年ほど掲載人物が少なく、逆に高学年ほど掲載人物が多いことがわかる。

なお、このうち夏目漱石、イチロー、ゲーテ、ジョージ・ワシントン、新渡戸稲造、野口英世、福沢諭吉、マザー・テレサ、松下幸之助、マリー・キュリーの10人は複数の学年にまたがって掲載されている（夏目漱石は3回、他9名は2回）。

それでは、これらの人物の属性はどうなっているだろうか。

第一に、性別としては、男性143人、女性32人（81.7%、18.3%）で男性が8割以上を占めている。

第二に、国籍としては、日本国籍119名、外国籍55名（68.4%、31.6%）である。

第三に、登場人物の生存状況としては、存命36名、他界136名（20.9%、79.1%）である。『私たちの道徳』は、物故者の取り扱いが中心となっている状況がうかがえる（表3）。

表3：学年別・単元別にみる登場人物の生存状況

対象学年	存命 / 他界			単元	存命 / 他界		
	存命	他界	合計		存命	他界	合計
小1-2年	2 25.0%	6 75.0%	8 100.0%	〈自分〉	13 24.5%	40 75.5%	53 100.0%
小3-4年	12 44.4%	15 55.6%	27 100.0%	〈人〉	7 15.6%	38 84.4%	45 100.0%
小5-6年	8 17.4%	38 82.6%	46 100.0%	〈生命〉	4 16.0%	21 84.0%	25 100.0%
中学生	14 15.4%	77 84.6%	91 100.0%	〈社会〉	9 19.6%	37 80.4%	46 100.0%
合計	36 20.9%	136 79.1%	172 100.0%	合計	33 19.5%	136 80.5%	169 100.0%

※上段は度数、下段は有効%を示す

※上段は度数、下段は有効%を示す

### 3. 『私たちの道徳』における歴史人物

このように、『私たちの道徳』登場人物の79.1%が物故者であることから、以下では、『私たちの道徳』への歴史人物の掲載状況について検討してみたい。

なお、以下では小学校の学年は、社会科で日本の歴史を学習する小学校6年生を含む「小学校高学年」と「小学校低・中学年」に分けることとする。

学年および内容項目と参考書掲載有無の関連は、表4のようになる。

第一に、歴史を学ぶ小学校高学年向け『私たちの道徳』には、歴史人物が掲載され、低学・中学年向け『私たちの道徳』には、歴史的人物がほぼ記載されていなかった。

第二に、『私たちの道徳』全体を通じて〈社会〉項目での歴史人物の登場頻度が高く、それ以外の項目では登場頻度が少ないことが明らかとなった。

表4：学年別・単元別にみる登場人物の歴史参考書への掲載状況

対象学年	歴史参考書への掲載			単元	歴史参考書への掲載		
	有	無	合計		有	無	合計
小1-2年	0 0.0%	9 100.0%	9 100.0%	〈自分〉	3 5.7%	50 94.3%	53 100.0%
小3-4年	1 3.7%	26 96.3%	27 100.0%	〈人〉	6 13.3%	39 86.7%	45 100.0%
小5-6年	8 16.7%	40 83.3%	48 100.0%	〈生命〉	2 7.4%	25 92.6%	27 100.0%
中学生	14 15.4%	77 84.6%	91 100.0%	〈社会〉	12 25.5%	35 74.5%	47 100.0%
合計	23 13.1%	152 86.9%	175 100.0%	合計	23 13.4%	149 86.6%	172 100.0%

※上段は度数、下段は有効%を示す

※上段は度数、下段は有効%を示す

#### 4. 『私たちの道徳』における歴史人物の事例検討

3. から小学校高学年および中学生向け『私たちの道徳』における登場人物と歴史人物との関連の強さが明らかになった。

一般的に道徳における偉人の取り扱い方の留意点として柳沼良太は、①多面的かつ創造的に道徳授業を展開すること、②偉人の苦悩や葛藤を理解できるように工夫すること、③複数の道徳的価値が同時並行的に現れることを大事にすること、④偉人の名言や格言を物語に即して理解すること、⑤偉人の行動原理を自覚させる問いかけを行うこと、⑥事前学習や事後学習で偉人をよく深く調べ、探究させること、を挙げている（貝塚・柳沼2014：284）。これらは『私たちの道徳』の活用方法としても示唆的だが、当該人物の道徳的価値が前提とされており、子どもに人物の歴史性をどのように把握させるかという点にも配慮が必要となる。

社会科教育においてこのような人物の歴史性に関わる問題は「人物学習」として議論されてきた。「人物学習」に対しては、①子どもの興味に任せて人物の業績を詳細に調べさせたり、漫画を利用したりするなど、目的が曖昧な様々な授業が展開される、②人物の行為や文化遺産を通じた解釈によって子どもが人物を過大に偉人化する、③時代の特色の理解に結びつかない因果関係の解釈に止まる、などの問題が指摘されている（寺尾2004：1）。

このような人物学習の問題点は、『私たちの道徳』の記述様式からして、その活用の際しても直面する問題と推測される。

例えば、歴史参考書である山口（2013）では、野口英世について以下のように紹介している。

野口英世は福島県猪苗代湖畔の貧しい農家に生まれた。赤ん坊の頃、自宅のいろりに落ちて大やけどを負い、左手が開かなくなってしまったが、そのハンデに負けずに勉強に励んだ。16歳の時、英世は学校の先生や友人らの寄付によって左手の手術を受け、手が開くようになった。これに感激した英世は、医学の道に進もうと決心。ほとんど独学で医学の勉強に打ち込み、日本を代表する医学者・北里柴三郎の伝染病研究所の助手として医学研究者の道を歩み始めた。1900（明治33）年、英世はアメリカに渡り、蛇毒の研究で成果をあげたのを機に、世界的に有名なロックフェラー医学研究所の職員となった。そこで英世は進行生麻痺という病気と梅毒の関連性を立証し、ノーベル医学賞候補として名前が挙げら

れるほどになった。

(山口2013：213)

一方、5・6年生用『私たちの道徳』に掲載されている野口英世に関する読み物資料「黄熱病とのたたかい」について、『私たちの道徳活用のための指導資料』では、野口が数々の苦難を乗り越え、世界を舞台に活躍する医学者となるまでの数多くの支援者の存在、そして野口がその支援者に感謝した点を、役割演技や話し合いによって児童が考えることを提案している(文部科学省2014：184-185)。「私たちの道徳」記述は以下のようになっている。

どことなく故郷の猪苗代に似ている風景をながめていると、幼いときから今までの思い出が、次々とうかんでくるのであった。

英世は、仲間から「ねむらない日本人」と呼ばれるほど研究に打ちこみ、世界的に注目される研究成果を次々と発表してきた。そして、世界の一流学者の証明であるロックフェラー医学研究所の正員となった。慣れない外国での生活、仲間との激しい競争、それらを乗り越えて最高の喜びを手にしたのである。

英世がここまで来るには、実に多くの人々の支えがあった。

(くじけそうになる自分をいつもはげましてくれた母。自分の才能を見だし援助してくれた小林栄先生。やけどの左手を手術し医学の道に導いてくれた渡部鼎先生。アメリカにわたるまでの一切の面倒をみてくれた血闘守之助先生。アメリカでの研究生活を親身になって支えてくれているフレクスナー博士。さらに、自分の度重なる借金の申し入れに応じてくれている数多くの友人たち……)

(『私たちの道徳 小学校5・6年』92頁)

これらの野口英世の記述を比較すると、『私たちの道徳』では、野口の関係者に対する感謝のみが抽出され、その時代背景等が読み取りづらい構成になっている。

また、歌川広重に関する記載も、山口(2013：134-137)では「時代の流れ」「歌川広重の人物像」「ゴッホもマネた『ヒロシゲ』」「錦絵はこうしてつくる」と、その来歴と影響力を詳細に紹介している一方で、『私たちの道徳 小学校5・6年』では、ゴッホによる歌川広重の模写の掲載の後に、以下のようなコメントが付されている構成となっている。

受けつがれている日本の伝統や文化に心動かされるとき、私たちはそれらをつくり、受けついできた昔の人々や地域の人々と心で対話をしている。

受けつがれているわが国の伝統や文化に学びながら、未来へ向けて豊かな心を育てていきたい。そしてそれらを受けつぎ、さらに発展させていくための力を身に付けていきたい。

(『私たちの道徳 小学校5・6年』168-169頁)

この箇所に関し、『私たちの道徳活用のための指導資料』では、総合的な学習の時間での調べ学習を提案している(文部科学省2014：213)が、『私たちの道徳』上で見れば、歌川広重の国外への影響力を示す写真のみをもって「郷土や我が国の伝統と文化」を読み取らなければならない構成となっている。

このように、『私たちの道徳』においては歴史人物の歴史性が読み取りづらい問題に対して、

柳沼 (2014) の提言の⑥のように、教科の枠にとらわれない事前・事後学習によって物語の社会的背景を補強させた上で道徳的価値を理解させるという方途も有効である。

一方で、『私たちの道徳』の記述への共感を最終目的とする場合、背景知識が加わったとしても、人物の評価にまつわる葛藤が起きづらいという問題が残ることとなる。例えば、『私たちの道徳 中学校』では、学研教育出版 (2009: 下96-97) でも取り扱われているガンディーについて「人物探訪」として1ページを割いて紹介している。その締めくくりは以下のようになっている。

〔前略…引用者〕

この後、ガンディーは、人種差別との闘いを始めます。また、差別と貧困に苦しむ人々を救うために、伝染病が流行したときにはスラムに行き看護もしました。インドに帰国してからは、身分制度の最下層に置かれ、長く苦しんできた人々の地位向上のためのイギリスからの独立運動の先頭に立ったのでした。

ガンディーは言います。「全ての人の目から、あらゆる涙を拭い去ることが私の願いである。」「私の人生こそが、私のメッセージである。」と。

(『私たちの道徳 中学校』164頁)

このガンディーの取り扱いについては、社会科教材と比しても記述が厚いが、そのことにより多様な歴史的事象が、「全ての人の目から、あらゆる涙を拭い去ることが私の願いである。」というメッセージに還元される構成となっている。

## 5. 今後の展望

4. で確認したように、『私たちの道徳』における歴史人物の情報は断片的である (佐貫 2015: 68-70でも同様の指摘がある) ため、その活用の際に留意が必要となってくる。

社会科教育における歴史人物に関する議論を参照すれば、寺尾 (2014) が指摘するように、近年、社会構成主義の観点から、子ども自身が歴史的人物の行為と出来事の関連性を構成できるような歴史の授業づくりが模索されている。また池尻良平は、学習者から捉え直した歴史の可能性として「未来の諸目的に合わせて過去の諸事件を選択し、対話するという、すなわち歴史的類推を用いた未来からのアブダクション」(池尻2015: 357) を示している。

無論、『私たちの道徳』は歴史教育を目的とした教材ではないが、これらの社会科教育研究の視点を活かすとすれば、道徳教育において歴史人物を取り扱う際も、児童生徒が①〈自分〉〈人〉〈生命〉〈社会〉という内容項目ごとの目標に必ずしもとらわれることなく、他の教材と併用しながら、社会認識形成や市民的資質育成といったいくつかの道徳的価値を選択できるようにすること、②歴史人物の成功の経緯と時代的制約を合わせて理解できるようにすること、の2点を踏まえた授業展開が重要になってくるだろう。

本稿は、あくまでも『私たちの道徳』の登場人物に関する内容分析に基づいた論考であり紙幅の都合上、存命の著名人に関する分析を行うことはできなかった。これらについては、本稿で提示した課題とともに、別稿に期すこととしたい<sup>9</sup>。



- 1 「道徳の教科化を答申、記述式の評価導入 中教審」『日本経済新聞』(2014.10.21) (URL: [http://www.nikkei.com/article/DGXLASDG21H15\\_R21C14A0CR8000/](http://www.nikkei.com/article/DGXLASDG21H15_R21C14A0CR8000/) 最終アクセス: 2014/10/31)
- 2 本稿では、『わたしたちの道徳』(小学校1・2年、小学校3・4年)『私たちの道徳』(小学校5・6年、中学校)について、標記を『私たちの道徳』に統一する。文部科学省による「『私たちの道徳』活用状況等調査結果」によれば、2014年度の道徳の時間の指導で使用する(予定も含む)教材として、全小学校、中学校のうちそれぞれ99.5%、98.4%が『私たちの道徳』と回答しており、「民間の教材会社で開発・刊行した教材」(小学校85.3%、中学校78.8%)を上回っている。(文部科学省「『私たちの道徳』活用状況等調査結果(2014年度)」[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/doutoku/](http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/doutoku/) 最終アクセス: 2014/10/31)
- 3 『私たちの道徳』に関する先行研究として村松(2015)、道徳教育の教材における体系的な人物研究としては、勝部(1966a,b)、押谷(1987)等がある。
- 4 本稿では、「人物学習」を「歴史上の人物の業績や生き方を教材として人物の行為や出来事、時代の特色について理解させる歴史学習」(寺尾2004: 1)の意味で用いる。
- 5 『朝日日本歴史人物事典』(朝日新聞社、1994年)、『岩波世界人名大辞典』(岩波書店、2013年)、『日本タレント名鑑 2014年版』(VIPタイムズ社)参照。
- 6 登場人物の、①大宅壮一文庫雑誌記事検索ヒット件数、②テレビ出演(情報・ドキュメンタリー番組『情熱大陸』(TBS系、1998年4月15日～)『プロフェッショナル 仕事の流儀』(NHK、2006年1月10日～))状況、③『私の履歴書』執筆状況を指標とした。なお、テレビ出演については、他界者と外国籍者、『私の履歴書』執筆状況については、明治以前生誕者と外国籍者を分析の対象から除いた。
- 7 社会科で取り扱うべき歴史人物について、小学校学習指導要領には記載があるが、ここでは小中を同時に検討するため、歴史人物に焦点を当てた参考書への記載を指標とすることで統一した。使用する参考書は、山口(2013)(小学校『学習指導要領社会科』で指導が促されている42人に8名を追加し、「その人物がどのようなことを行い、それが日本の歴史にどのような影響を与えたのか」という内容を中心に)記載(同上書: 3)、日能教務部(2000)(中学入試によく出る60人の歴史人物について、「思想や行動に接し、生きた存在として感じられるように」記載(同上書: 2))、くもん出版会(1998)(「テスト突破に効果のある、189の人物をピックアップ」し、「インパクトのあるまんがと、リズム感のある暗記文」を掲載(同上書: 2))、学研教育出版(2009)(主要人物110人と関連人物120の計230人について特徴を漫画紹介しつつ掲載(同上書上巻: 6))である。このうち学研教育出版部(2009)については、主要人物110名としての掲載有無を検討した。
- 8 すべて2014年10月31日時点の情報。
- 9 合わせて、社会学的観点からは、道徳教材に掲載されることによって人物としての「有名性」にも影響があると予想されるが、この点についても今後の課題としたい。

#### 【引用・参考文献】

- 福田鉄雄「『私たちの道徳』活用のポイント」『中等教育資料』63(10), 2014年, 18-21頁。  
学研教育出版『まんが攻略BON! 中学歴史人物230 上巻・下巻』, 2009年, 学研教育出版。  
長谷徹(編)『『わたしたちの道徳』完全活用ガイドブック 小学校編』, 2015年, 明治図書出版。  
早川大介「低学年『小さな力のかさね—二宮金次郎』」『初等教育資料』(915), 2014年, 14-17頁。  
池尻良平「学習者から捉え直した歴史の可能性」岡本充弘ほか編『歴史を射つ—言語論的転回・文化史・パブリックヒストリー・ナショナルヒストリー—』, 2015年, 御茶の水書房, 338-360頁。  
貝塚茂樹・柳沼良太『学校で学びたい日本の偉人』育鵬社, 2014年。  
勝部真長編集代表『道徳資料による人物伝記の教材研究—小学校編—』文教書院, 1966年a。  
———編集代表『道徳資料による人物伝記の教材研究—中学校編—』文教書院, 1966年b。  
河合昌昌「中学年『働くすがたが、かがやいている人たち(天野篤、小篠綾子、井深大)』」『初等教育資料』(915), 2014年, 28-29頁。  
木下美紀「高学年『小川笙船』」『初等教育資料』(915), 2014年, 22-25頁。  
桑由利子「低学年『シロクマ ピース—はじめて人間がシロクマをそだてた話』」『初等教育資料』(915), 2014年, 26-27頁。  
くもん出版会『要点100% 中学歴史 重要人物』くもん出版会, 1998年。  
松元直史「格言で先人や先哲の生き方や考え方を教える授業」押谷由夫・諸富祥彦・柳沼良太編『新教科・道徳はこうしたら面白い—道徳科を充実させる具体的提案と授業の実例』図書文化社, 2015年, 210-217頁。  
文部科学省初等中等教育局教育課程課『『私たちの道徳』作成の背景と構成』『初等教育資料』(915), 2014年a, 2-7頁。

- 『『私たちの道徳』作成の背景と構成』『中等教育資料』63(10), 2014年b, 10-13頁。
- 文部科学省 (2015) 「道徳教育の抜本的改善・充実」  
URL:[http://www.mext.go.jp/component/a\\_menu/education/detail/\\_icsFiles/afieldfile/2015/03/27/1282846\\_9.pdf](http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/detail/_icsFiles/afieldfile/2015/03/27/1282846_9.pdf) (最終アクセス: 2015/9/17)
- 村松遼太「『わたしたちの道徳』における情報モラルに関する教材の課題: 内容項目との関連性の分析を通して」『教材学研究』26, 2015年, 191-200頁。
- 日能研教務部『入試によく出る歴史人物60人』みくに出版, 2000年。
- 押谷慶昭「道徳の指導資料における人物の取扱いについて」『上越教育大学研究紀要』第6巻第1分冊, 1987年, 27-59頁。
- 佐貫浩『道徳性の教育をどう進めるか—道徳の「教科化」批判』新日本出版社, 2015年。
- 七條正典『『私たちの道徳』の効果的な活用と課題』『中等教育資料』63(10), 2014年, 14-17頁。
- 柴原弘志 (編)『『私たちの道徳』完全活用ガイドブック 中学校編』, 2015年, 明治図書出版。
- 柴田育郎「人物を題材にした道徳授業の指導作り (その1)」『学び舎 教職課程研究』6, 2011年, 79-90頁。
- 「人物を題材にした道徳授業の指導作り (その2)」『学び舎 教職課程研究』7, 2012年, 48-58頁。
- 鈴木芽吹「中学年『きっとできる—高橋尚子』」『初等教育資料』(915), 2014年, 18-21頁。
- 鈴木由美子ほか「道徳的価値に気づかせるための伝記教材の開発」『広島大学学部・附属学校共同研究機構研究機構』第39号, 2011年, 189-194頁。
- 高柳充利・北田愛治「読み直される偉人伝と道徳教育: 布田保之助を扱った小学校4年生の事例から出発して」『信州大学教育学部研究論集』8号, 2015年, 97-107頁。
- 田沼茂紀・みらいの道徳をつくる会『やってみよう!新しい道徳授業—教科化時代の『私たちの道徳』の活用例』学研教育みらい, 2014年。
- 寺尾健夫「認知構成主義に基づく歴史人物学習の原理—アマーヌトプロジェクト単元『リンカーンと奴隷解放』を手がかりとして—」『社会科研究』第61号, 2004年, 1-10頁。
- 時津啓「小学校『私たちの道徳』の分析: その政治的文脈と内容との関係に注目して」『広島文化学園大学学芸学部紀要』第5号, 2015年, 29-39頁。
- 常見昌弘「高学年『もったいない』を世界共通の言葉に一ワンガリ・マータイ」『初等教育資料』(915), 2014年, 30-31頁。
- 山口正『学習指導要領完全対応50人 重要人物で覚える日本の歴史』朝日新聞出版, 2013年。
- 山崎雄介「道徳の『特別教科』化と学校教育の課題」日本教育学会編『教育方法44 教育のグローバル化と道徳の「特別の教科」化』図書文化社, 2015年, 66-79頁。
- 吉本一也『『私たちの道徳』を授業づくりに生かす』『道徳と特別活動』31(8), 2014年, 14-17頁。